

ロシア 東欧 経済速報

社団法人 ロシア東欧貿易会
ロシア東欧経済研究所

東京都中央区新川1-2-12 金山ビル 郵便番号104 電話 (3551)6215~9
購読料 送料共前納 ・ 1ヵ月 1,200円 1ヵ年 14,000円

平成7年1月15日

No. 977

モスクワから見たロシア経済

はじめに

ロシアについて多くのことが語られるとき、しばしば「群盲象をなでる」という言い方を思い出す。いわく「マフィアがはびこっている」、「経済はカオス状態」、「底なしのインフレ」、「軍民転換は手つかず」、「ベンツを乗り回すニューリッチ層と路上で物を売る低所得層」、「台頭するナショナリズム」、「核物質密輸出の国」等々。

ひとつひとつのことは本当のこともあるし、あまりに一刀両断すぎて、現実を反映しない表現もあるように思う。おそらく、ロシアは歴史上誰もその全貌を把握したことはない巨大な象なのではないか。もちろん、筆者も把握などとうていできないが、モスクワに駐在する群盲のひとりがなでた場合どのような感触が得られるか、関心をもって頂ければ幸いである。

本稿は当会モスクワ事務所長・池田正弘が執筆したものであり、本稿で述べられていることは執筆者個人の見解である。

1. チェチェン問題 — エリツィンの躓きの石

本稿を起こしている1月9日現在、ロシア軍がチェチェン共和国のグロズヌイを侵攻中で